

滋賀県内企業動向調査 ～16年7-9月期の実績見込みと10-12月期の見通し～ 製造業の景況感悪化でマイナス幅拡大

㈱滋賀銀行のシンクタンクである ㈱しがぎん経済文化センター（大津市、取締役社長 中川 浩）では、県内企業の景況感を調査するために「滋賀県内企業動向調査」を四半期ごとに実施しています。このほど2016年7-9月期分の調査結果をまとめましたので、公表いたします。

【調査の概要】

- ・調査名：滋賀県内企業動向調査（2016年7-9月期）
- ・調査時期：2016年8月4日～25日
- ・調査方法：郵送による配布、回収
- ・調査対象先：滋賀県内に本社を置く企業および県外からの進出企業 940社
- ・回答数：404社（有効回答率 43%）うち製造業 176社、非製造業 228社
- ・分析手法：D I（ディフュージョン・インデックス）
＝「かなり良い」と「やや良い」の回答割合から、
「かなり悪い」と「やや悪い」の回答割合を引いた指数を採用

【調査結果の要旨】

1. 現在の業況判断（P 2～4）

- ・今回調査（16年7-9月期）での自社の業況判断D Iは-15で、前回（16年4-6月期）の-13から2ポイント悪化し、マイナス幅は拡大、依然大幅なマイナス水準にある。
- ・消費増税が実施された14年4-6月期以降、10四半期連続で「悪い」が「良い」を上回るマイナス水準であり、今回はマイナス幅が拡大し厳しい状況が続いている。
- ・製造業は、前回の-11から7ポイント悪化の-18となった。前回プラス水準に回復した電気機械（+8→+21）はプラス幅が拡大し好調を維持、その他の製造業（-14→+19）もマイナス水準からプラス水準に回復した。金属製品（+5→-17）はプラス水準からマイナス水準に悪化、前回もちあいに回復した化学（±0→-11）は再びマイナス水準に低下。繊維（-12→-30）、木材・木製品（-29→-46）、食料品（-9→-40）、一般機械（-13→-36）、輸送用機械（-50→-63）などはマイナス幅が拡大した。
- ・一方、非製造業は、前回の-14から1ポイント上昇し-13となった。建設（-12→-14）、運輸・通信（-6→-19）はマイナス幅が拡大。卸売（-23→-21）、小売（-30→-29）は3四半期連続でマイナス水準と低迷している。前回もちあいに回復した不動産は+8とプラス水準に上昇。前回プラス水準に回復したサービス（+4→+5）はプラス水準を維持。

2. その他の判断項目（P 4～7）

- ・売上D I（前回：-9→今回：-13）は前回から4ポイント低下。製造業は-7から-11に低下し、非製造業も-10から-14に低下した。全体では8四半期連続でマイナス水準（「減少」超過）が続いている。
- ・経常利益D I（-11→-14）は3ポイント低下し、10四半期連続でマイナス水準となった。
- ・製・商品の在庫D I（+7→+7）は前回と同水準、製造業（+8→+13）は過大感が強まるも、非製造業（+7→+1）は過大感が大幅に弱まった。
- ・販売価格D I（-6→-8）は2ポイント低下した。
- ・仕入価格D I（+10→+2）は-8ポイントと大幅に低下した。
- ・生産・営業用設備D I（+1→-3）は、再びマイナス水準に低下した。
- ・雇用人員D I（-18→-21）は、17四半期連続のマイナス水準で人手不足が続いている。

3. 設備投資の実施状況（P 8・9）

- ・設備投資を実施した（する）企業の割合は45%で、前回（44%）から1ポイント上昇も、2四半期連続で5割を割り込む。
- ・主な内容（複数回答）は、「生産・営業用設備の更新」（43%）が最多。次いで「車両の購入」（30%）、「生産・営業用設備の新規導入」「OA機器の購入」（22%）と続いた。

【お問い合わせ先】 ㈱しがぎん経済文化センター 産業・市場調査部 北村（TEL：077-523-2245）

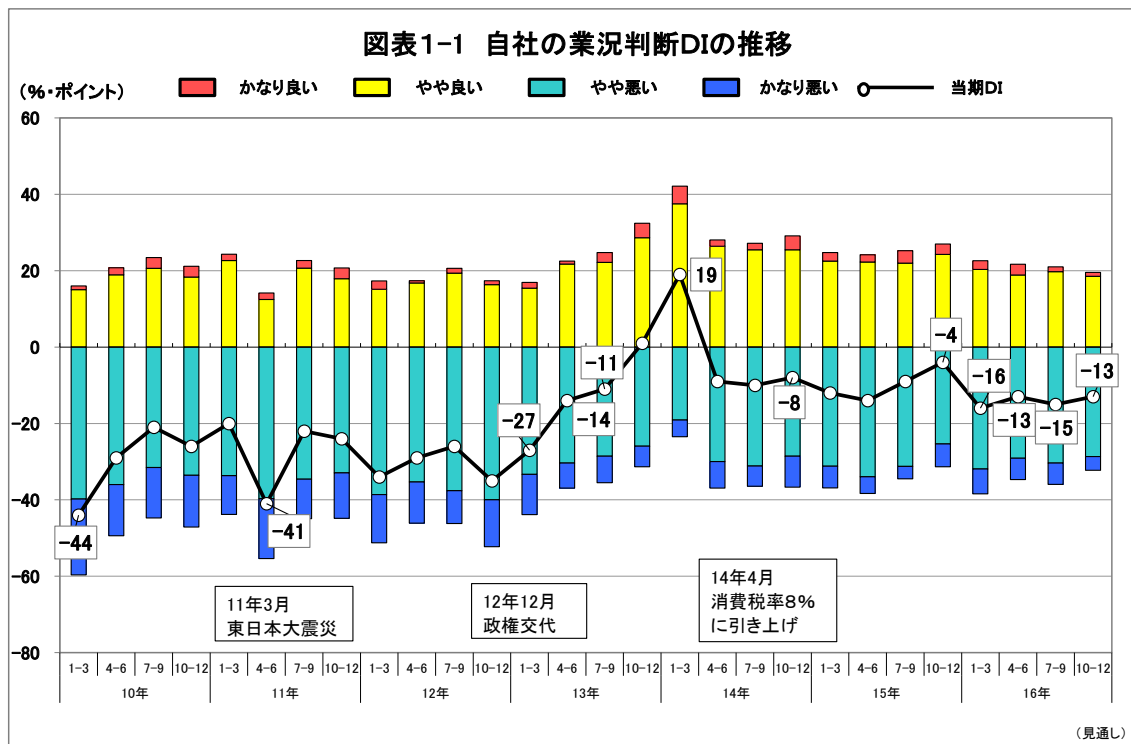
1. 自社の業況判断

(1) 自社の業況判断DI…10 四半期連続のマイナス水準、製造業の景況感悪化

1. 全体の動向 (図1-1)

今回の調査(16年7-9月期)での自社の業況判断DIは前回(4-6月期)の-13から2ポイント低下の-15となり、マイナス幅が拡大した。消費増税が実施された14年4-6月期以降、10四半期連続で「悪い」と答えた企業の割合が「良い」を上回った。

3カ月後は2ポイント改善の-13と、マイナス幅が縮小する見通しを示した。



2. 業種別の動向 (図1-2、表1)

業種別にみると、製造業は、前回の-11から7ポイント低下の-18となった。前回プラス水準に回復した電気機械(+8→+21)はプラス幅が拡大し好調を維持、その他の製造業(-14→+19)もマイナス水準からプラス水準に回復するも、金属製品(+5→-17)はプラス水準からマイナス水準に悪化、前回もちあいに回復した化学(±0→-11)は再びマイナス水準に低下。繊維(-12→-30)、木材・木製品(-29→-46)、食料品(-9→-40)、一般機械(-13→-36)、輸送用機械(-50→-63)などはマイナス幅が拡大した。3カ月後の製造業全体は、8ポイント良化の-10となる見通しである。

非製造業は、前回の-14から1ポイント上昇し-13となった。建設(-12→-14)、運輸・通信(-6→-19)はマイナス幅が拡大。卸売(-23→-21)、小売(-30→-29)は三四半期連続でマイナス水準と低迷している。前回もちあいに回復した不動産は+8とプラス水準に上昇。前回プラス水準に回復したサービス(+4→+5)はプラス水準を維持している。3カ月後は、現在から3ポイント上昇の-15となる見通しである。

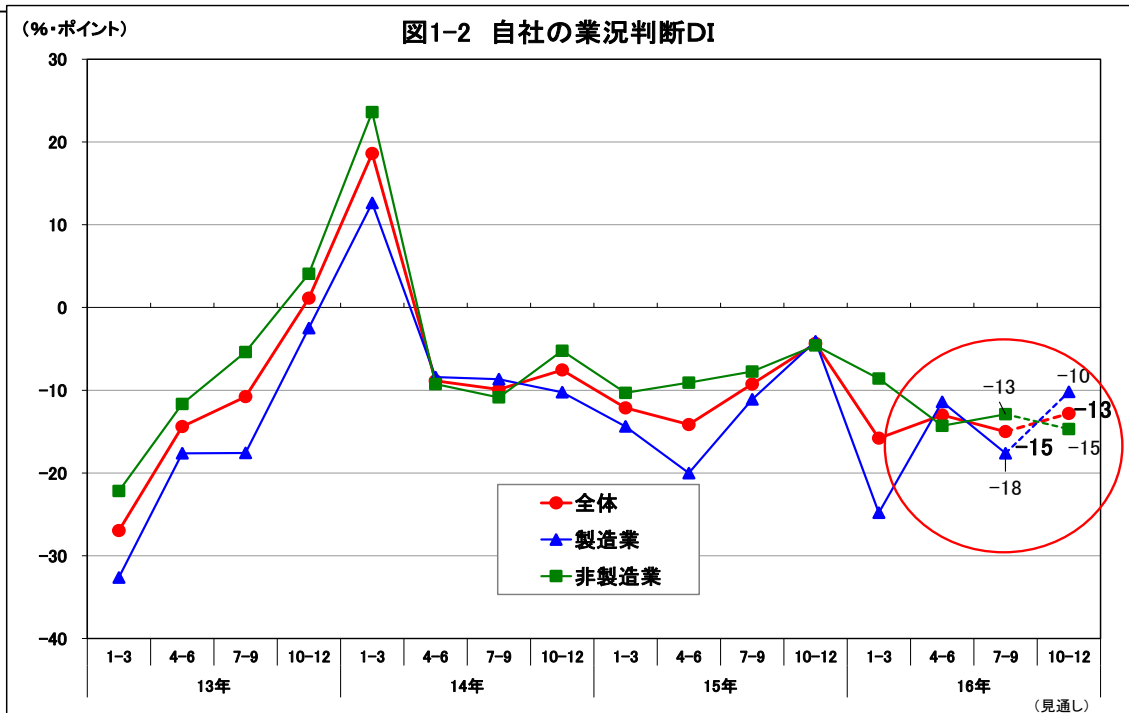


表1 自社の業況判断DI(業種別)

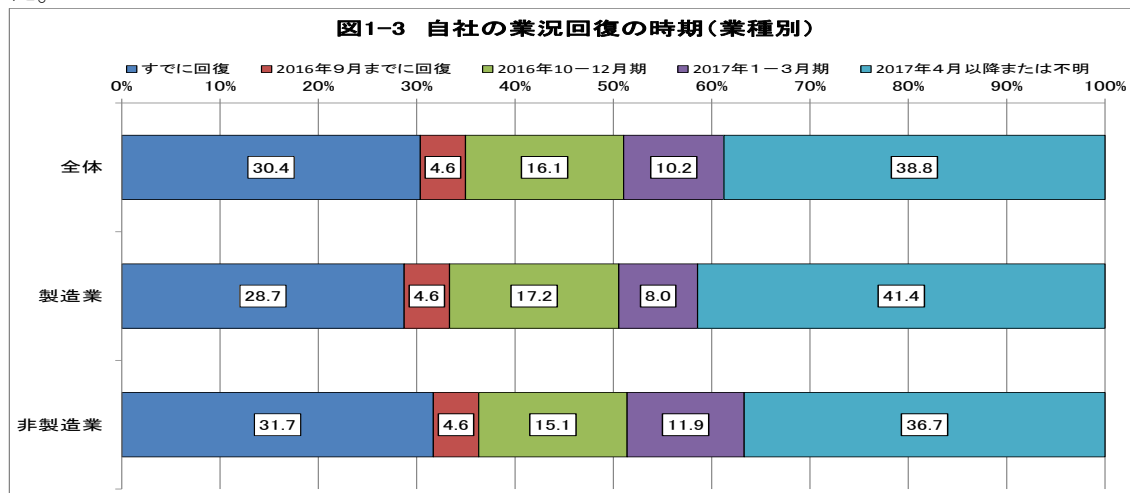
業種(※1)	今回の回答社数	16年 4-6月期 前回	16年 7-9月期 今回(※2)	16年 10-12月期 見通し
全体	395	-13	-15 (-17)	-13
製造業	176	-11	-18 (-15)	-10
繊維	23	-12	-30 (-35)	-31
木材・木製品	11	-29	-46 (0)	-9
紙・パルプ	×	×	×	×
化学	9	0	-11 (33)	-11
石油・石炭	×	×	×	×
窯業・土石	10	-17	-10 (-33)	-30
鉄鋼	×	-50	×	×
非鉄金属	×	×	×	×
食料品	15	-9	-40 (-27)	0
金属製品	18	5	-17 (-44)	-17
一般機械	14	-13	-36 (-7)	-7
電気機械	14	8	21 (0)	0
輸送用機械	8	-50	-63 (-25)	-75
精密機械	4	-50	-100 (-25)	-50
その他の製造業	37	-14	19 (-3)	14
非製造業	219	-14	-13 (-18)	-15
建設	72	-12	-14 (-15)	-13
不動産	12	0	8 (27)	9
卸売	34	-23	-21 (-40)	-27
小売	42	-30	-29 (-42)	-38
運輸・通信	16	-6	-19 (6)	-6
電気・ガス	×	×	×	×
サービス	36	4	5 (7)	3
リース	×	×	×	×
その他の非製造業	6	-38	17 (-63)	17

(※1) 回答数が3社以下の業種は非表示(×)

(※2) ()内の数値は前回調査時点での7-9月期の見通し

(2) 自社の業況回復の時期…「すでに回復」は約3割(図1-3)

自社の業況回復の時期については、「すでに回復(好調維持を含む)」した企業の割合は30.4%と約3割になり、「9月まで」(4.6%)を合わせると35%と約3分の1に上った。一方で半年以上先の「17年4月以降(不明を含む)」も約4割(38.8%)を占め、一部では業績不振が続くとみられる。業種別では、「すでに回復」した企業の割合は、製造業の28.7%に対し非製造業は31.7%と、前回とは逆に非製造業の方が回復の割合が高くなった。



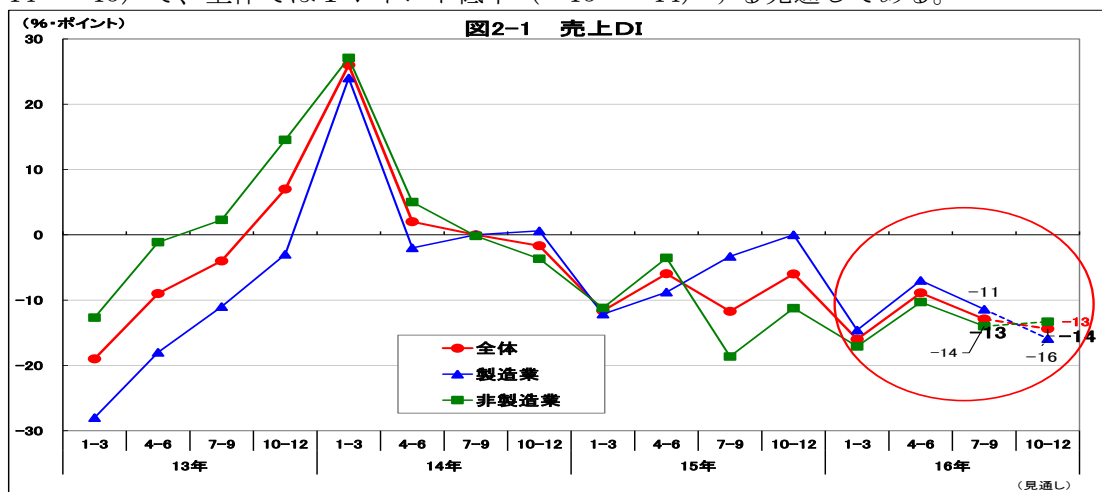
2. その他の判断項目

(1) 売上DI…マイナス幅拡大し、8四半期連続でマイナス水準

現在の売上DI(「増加」と回答した企業の割合から「減少」と回答した企業の割合を引いた値)は-13で、前回の-9から4ポイント低下、全体では8四半期連続でマイナス水準(「減少」超過)が続いている。

業種別では、製造業は-7から-11に4ポイント低下。電気機械(+33→+22)はプラス水準を維持、その他の製造業(±0→+19)はもちあいからプラス水準に回復するも、化学(±0→-33)、輸送用機械(±0→-25)はもちあいからマイナス水準に低下、繊維(-6→-9)、窯業・土石(-17→-20)、食料品(-18→-27)、金属製品(-5→-11)、一般機械(-27→-50)などはマイナス幅が拡大した。非製造業も-10から-14に4ポイント低下した。不動産(-42→+8)、その他非製造業(-50→+50)はマイナス水準からプラス水準に回復するも、サービス業(+7→+8)はプラス水準からマイナス水準に再び悪化。建設(-4→-12)、卸売(-5→-38)などはマイナス幅が拡大した。

3カ月後は、製造業は5ポイント低下(-11→-16)、非製造業は1ポイント上昇(-14→-13)で、全体では1ポイント低下(-13→-14)する見通しである。

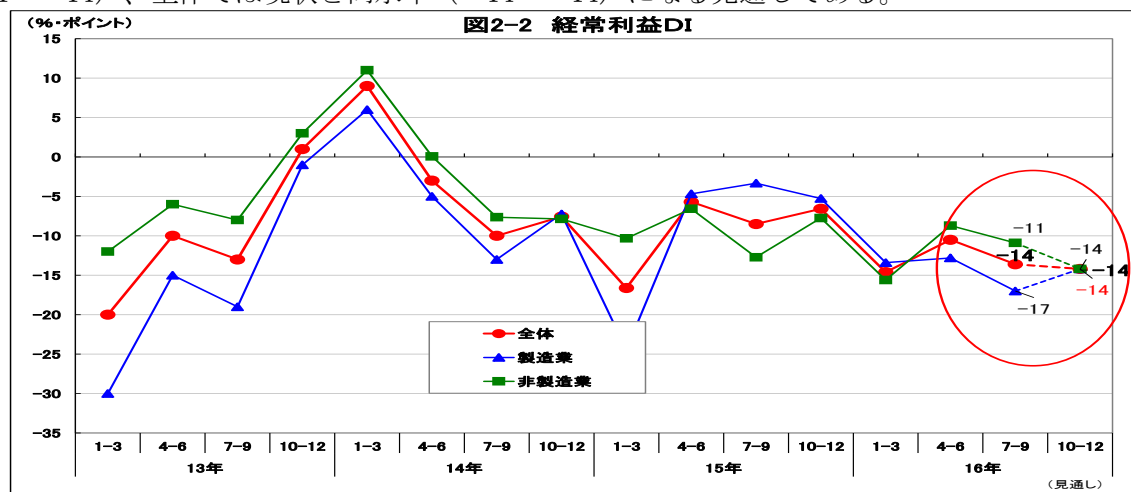


(2) 経常利益DI…マイナス幅拡大、10 四半期連続のマイナス水準

現在の経常利益DI（「増加」と回答した企業の割合から「減少」と回答した企業の割合を引いた値）は-14で、前回の-11から3ポイント悪化し、10 四半期連続でマイナス水準になった。

業種別にみると、製造業は-13から4ポイント低下し-17となった。窯業・土石（-33→+20）はマイナス水準からプラス水準に回復、その他の製造業（-10→-3）はマイナス幅が縮小するも、電気機械（+17→-14）はプラス水準からマイナス水準に悪化。繊維（±0→-13）、化学（±0→45）、食料品（±0→-13）、輸送用機械（±0→-25）がもちあいからマイナス水準に低下。一般機械（-40→-43）などはマイナス幅が拡大した。非製造業も2ポイント低下（-9→-11）した。不動産（-18→±0）はマイナス水準からもちあいに回復、運輸・通信（±0→+6）はもちあいからプラス水準に回復、サービス（+10→+5）はプラス水準を維持、小売（-26→-14）、その他非製造業（-50→-17）はマイナス幅が縮小するも、卸売（+8→-22）はプラス水準から再びマイナス水準に低下した。

3カ月後は、製造業は3ポイント改善（-17→-14）、非製造業は3ポイント低下（-11→-14）、全体では現状と同水準（-14→-14）になる見通しである。

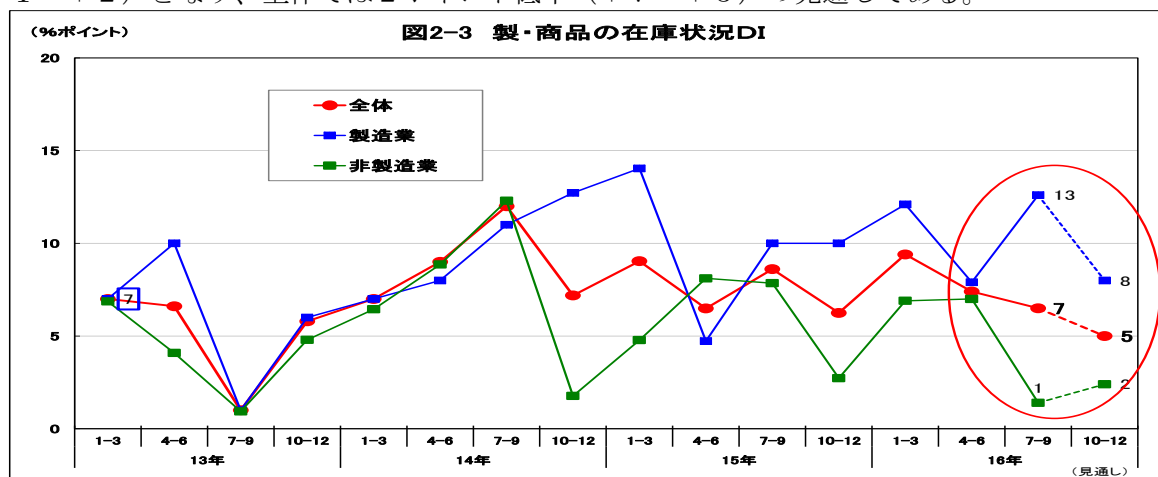


(3) 製・商品の在庫状況DI…製造業の過大感増加、非製造業は過大感減少

現在の製・商品の在庫状況DI（「過大」と回答した企業の割合から「不足」と回答した企業の割合を引いた値）は+7で、前回の+7と同水準となった。

業種別にみると、製造業は5ポイント上昇（+8→+13）した。化学（±0→11）、窯業・土石（±0→10）、食料品（±0→+7）、電気機械（±0→+7）、輸送用機械（±0→+13）がもちあいから過大感が増加した。非製造業は6ポイント低下（+7→+1）した。不動産（+18→±0）、小売（+26→±0）がプラス水準からもちあいになった。

3カ月後は、製造業は5ポイント低下（+13→+8）、非製造業は1ポイント上昇（+1→+2）となり、全体では2ポイント低下（+7→+5）の見通しである。

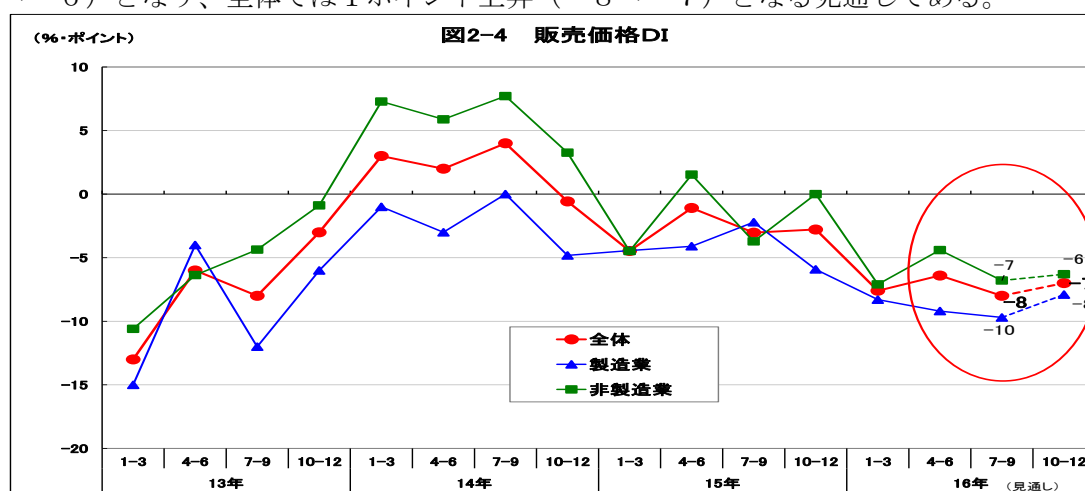


(4) 販売価格DI…マイナス幅が拡大

現在の販売価格DI（「上昇」と回答した企業の割合から「下落」と回答した企業の割合を引いた値）は、-8で前回の-6から2ポイント低下した。

業種別にみると、製造業は1ポイント低下（-9→-10）した。食料品（+9→±0）はプラス水準からもちあいに低下、化学（-22→-33）、窯業・土石（-17→-20）などでマイナス幅が拡大した。非製造業は3ポイント低下（-4→-7）でマイナス幅が拡大した。運輸・通信（-7→+7）はプラス水準に回復も、サービス（+10→-6）はプラス水準からマイナス水準に低下、卸売（-5→-16）などはマイナス幅が増加した。

3カ月後は、製造業が2ポイント上昇（-10→-8）、非製造業は1ポイント上昇（-7→-6）となり、全体では1ポイント上昇（-8→-7）となる見通しである。

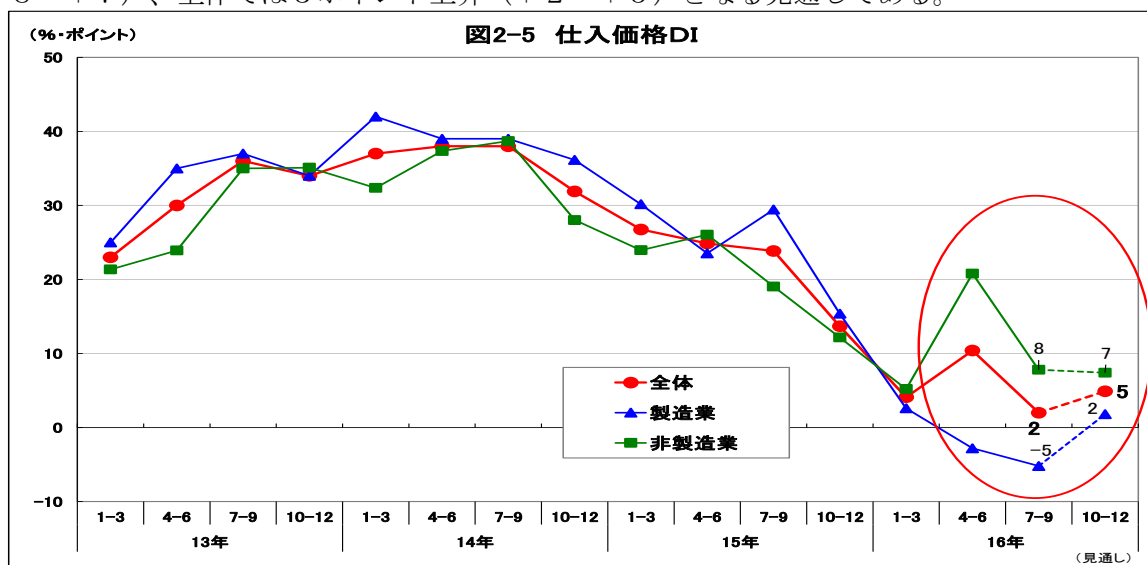


(5) 仕入価格DI…製造業、非製造業とも再び低下

現在の仕入価格DI（「上昇」と回答した企業の割合から「下落」と回答した企業の割合を引いた値）は+2で、前回の+10から8ポイントの大幅と低下なった。

業種別にみると、製造業は2ポイント低下（-3→-5）しマイナス幅が拡大した。木材・木製品（-25→±0）、一般機械（-7→±0）などは上昇も、化学（-25→-33）、食料品（+18→+7）、輸送用機械（±0→-13）、その他の製造業（+10→-3）などが低下した。非製造業は前回16ポイント上昇したが、今回（+21→+8）は13ポイント低下した。不動産（+10→+40）は大幅上昇も、卸売（+28→+8）、小売（+33→+9）、運輸・通信（+23→±0）などで大幅に低下した。

3カ月後は、製造業は7ポイント上昇（-5→+2）、非製造業は1ポイント低下（+8→+7）、全体では3ポイント上昇（+2→+5）となる見通しである。

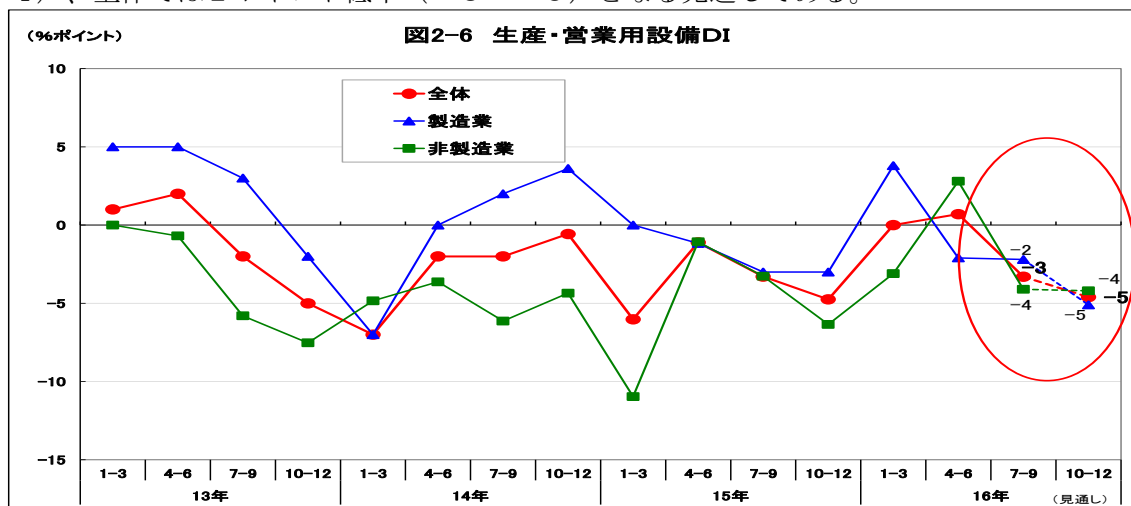


(6) 生産・営業用設備DI…再びマイナス水準に低下

現在の生産・営業用設備DI（「過剰」と回答した企業の割合から「不足」と回答した企業の割合を引いた値）は、前回の+1から4ポイント低下の-3と、前回12四半期振りにプラス水準に戻ったが再びマイナス水準に低下した。

業種別にみると、製造業は前回と同水準（-2→-2）となった。化学（-11→+22）、金属製品（-5→+11）などが上昇し過剰感が強くなった。一方、食料品（+9→-7）はプラス水準からマイナス水準に低下、電気機械（±0→-7）はもちあいからマイナス水準に低下した。非製造業は7ポイント低下（+3→-4）した。不動産（±0→-18）、小売（±0→-7）、サービス（-7→-14）などが低下し、不足感が強まった。

3カ月後は、製造業は3ポイント低下（-2→-5）、非製造業は同水準（-4→-4）、全体では2ポイント低下（-3→-5）となる見通しである。

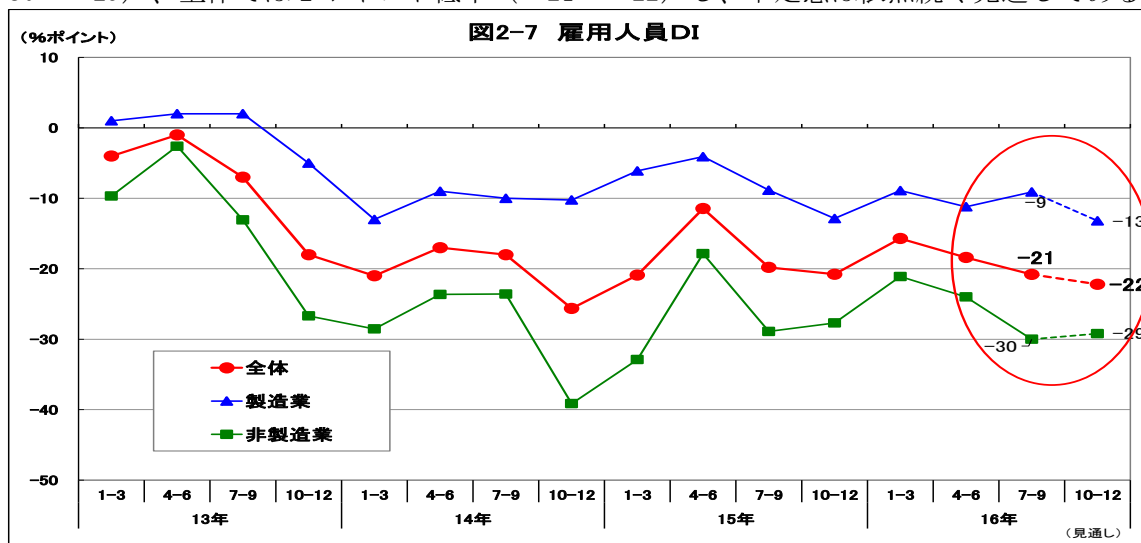


(7) 雇用人員DI…不足感やや強まる

現在の雇用人員DI（「過剰」と回答した企業の割合から「不足」と回答した企業の割合を引いた値）は-21と前回の-18から3ポイント低下。12年7-9月期から17四半期連続でマイナス水準（人手不足）となり、厳しい状況が続いている。

業種別にみると、製造業は2ポイント上昇（-11→-9）。化学（-11→+11）、窯業・土石（-17→+10）、一般機械（-7→+21）などは不足から過剰になったが、繊維（-12→-26）、食料品（-27→-33）などはマイナス幅が拡大し、不足感が強まった。非製造業は6ポイント低下（-24→-30）した。運輸・通信（-13→-31）、その他の非製造業（-13→-33）などは大幅に低下し不足感が強まった。

3カ月後は、製造業は4ポイント低下（-9→-13）、非製造業は1ポイント上昇（-30→-29）、全体では1ポイント低下（-21→-22）し、不足感は依然続く見通しである。



3. 設備投資の実施状況

(1)設備投資の実施割合…2四半期連続で5割割れ

今期（7-9月期）に設備投資を実施した（する）企業の割合は45%だった。2四半期連続で50%を下回った。

業種別にみると、製造業は49%で、前回（46%）から3ポイント上昇。うち窯業・土石（50%→80%）などで大きく上昇した。非製造業は41%で、前回（43%）から2ポイント低下。うち建設（43%→37%）、卸売（54%→46%）、小売（37%→33%）などが低下した。

3カ月後の設備投資実施予定の割合は、製造業が44%、非製造業が34%で全体では38%と、低下する見通しである。

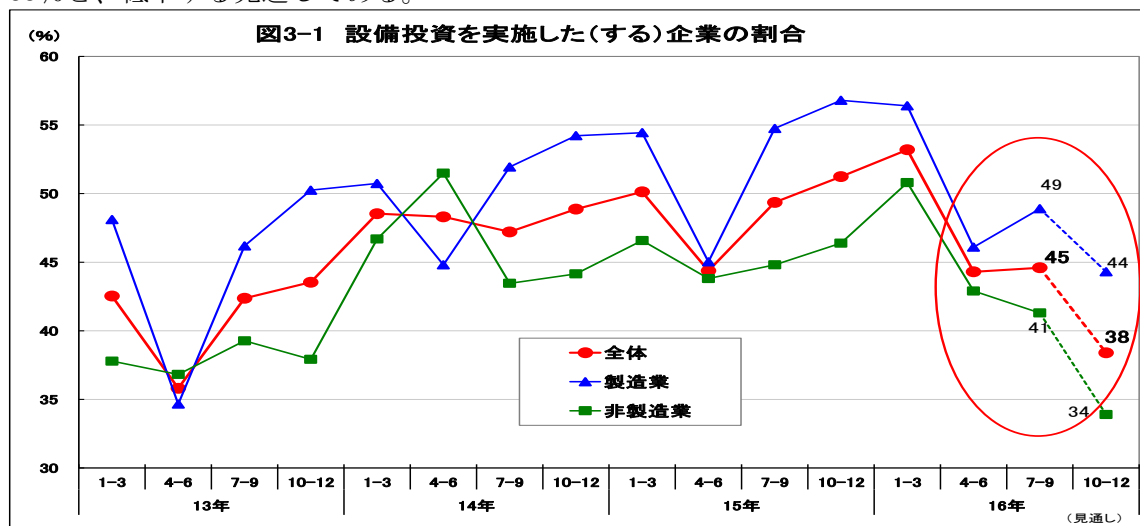


表2 設備投資を実施した(する)の企業の割合(業種別詳細) (%)

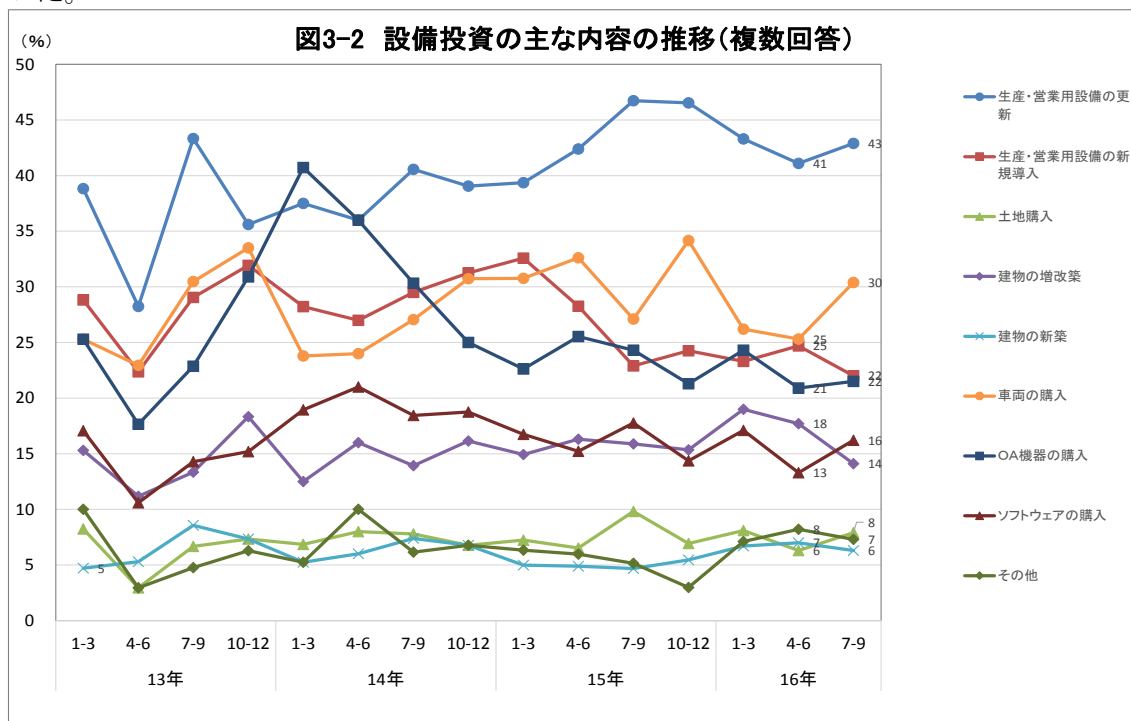
業種(※)	16年 4-6月期 前回	16年 7-9月期 今回	16年 10-12月期 見通し
全体	44	45	38
製造業	46	49	44
繊維	35	44	43
木材・木製品	13	18	27
紙・パルプ	×	×	×
化学	63	56	67
石油・石炭	×	×	×
窯業・土石	50	80	78
鉄鋼	×	×	×
非鉄金属	×	×	×
食料品	46	53	47
金属製品	47	61	33
一般機械	53	50	39
電気機械	42	36	33
輸送用機械	75	75	88
精密機械	×	×	×
その他の製造業	53	43	40
非製造業	43	41	34
建設	43	37	23
不動産	9	17	8
卸売	54	46	36
小売	37	33	36
運輸・通信	47	56	56
電気・ガス	×	×	×
サービス	53	55	50
リース	×	×	×
その他の非製造業	13	50	33

(※)回答数が3社以下の業種は非表示

(2)設備投資の主な内容…「生産・営業用設備の更新」が10四半期連続のトップ

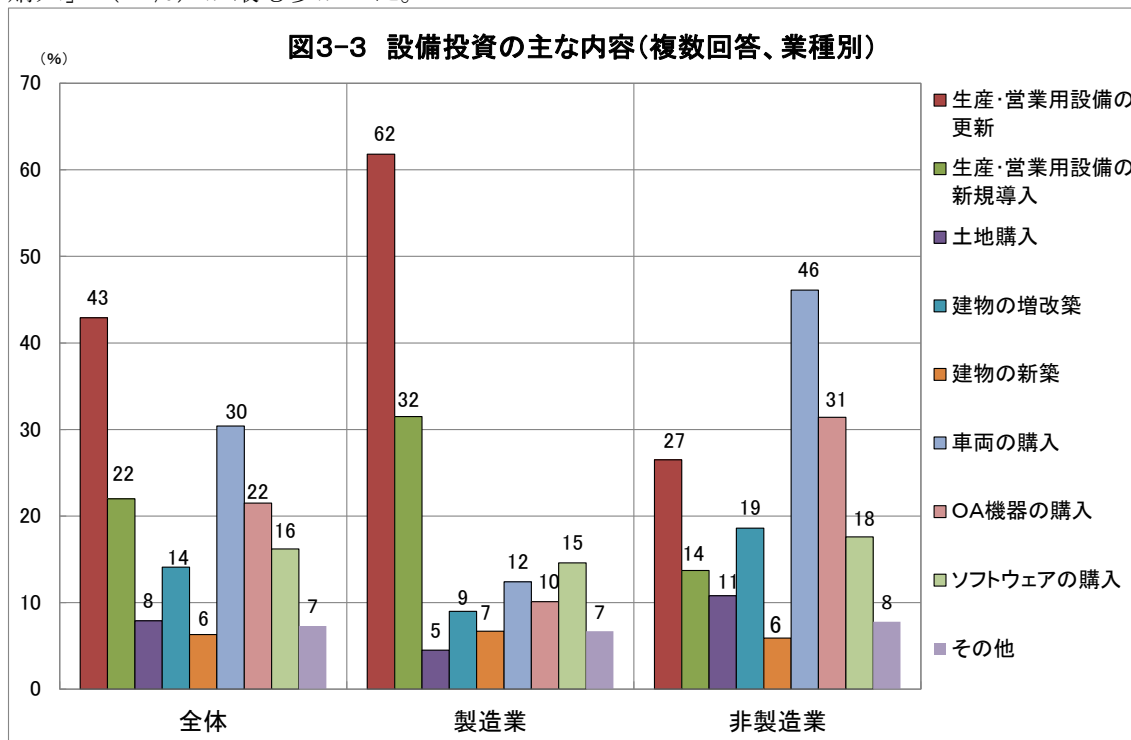
1. 全体の動向 (図3-2)

設備投資を実施した(する)企業のうち、設備投資の主な内容をみると(複数回答)、「生産・営業用設備の更新」(43%)が10四半期連続で最も多かった。次いで「車両の購入」(30%)、「生産・営業用設備の新規導入」(22%)と続いた。



2. 業種別の動向 (図3-3)

業種別にみると、製造業は「生産・営業用設備の更新」(62%)、非製造業は「車両の購入」(46%)が最も多かった。



【参考資料】

1. 現在の業況判断の根拠となる具体的な理由や背景（一部抜粋）

【製造業】

「良い」（かなり良い+やや良い）

業種	事象
繊維	<ul style="list-style-type: none"> ・受注増継続中。 ・取引先がベッド関連に進出のため2020オリンピックに向けてホテル建設ラッシュで増産中。
化学	<ul style="list-style-type: none"> ・円高で原料は値下がりしたが、一方で売値低下で収益は若干下向する。
鉄鋼	<ul style="list-style-type: none"> ・例年であれば閑散期である7~8月だが、今年はそれほど落ち込まず、売上が去年に比べて10%増加した。
食料品	<ul style="list-style-type: none"> ・新店出店効果（ショッピングセンター、百貨店）により売上増加。
金属製品	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車関係の売上が増加している。 ・不採算部材をやめた。一部製品の単価を引き上げてもらった。
一般機械	<ul style="list-style-type: none"> ・受注増。 ・印刷機の受注が増加。
輸送用機械	<ul style="list-style-type: none"> ・受注増となっている。ただし、スポットでの大型案件によるものであり、それを除くベースでは例年並み。全体として主要顧客であるスキー場事業者の設備マインドは低い。
その他の製造	<ul style="list-style-type: none"> ・前年同期と比べるとプラスマイナス0。 ・季節的要因で需要が減少する。 ・売上の増加。 ・売上高は減少もナフサ価格の影響で経常利益は110%。 ・利益率改善した（円高等）。 ・従来の固定得意先への安定供給と新規得意先の増加。 ・出荷量が前年同月対比増加、上半期も増加となる。10月以降は逆に前年同月対比減少となる見通し。 ・猛暑の影響でエアコン向けの受注が増加している。

「悪い」（かなり悪い+やや悪い）

業種	事象
繊維	<ul style="list-style-type: none"> ・受注の減少。
木材・木製品	<ul style="list-style-type: none"> ・業界全体の問題。仏教、仏壇離れ、生活様式の変化、低価格化。 ・100%受注生産のため不明（不変） ・景気低迷の影響で特に輸出が伸びず、売上の減少が続く（取引先の）。
窯業・土石	<ul style="list-style-type: none"> ・3部門中、2部門は売り上げも前年比UPしているが、電子部品の売上が大きく全体ではマイナス。しかしながら、経費削減にて利益は確保できている。 ・売上減。
食料品	<ul style="list-style-type: none"> ・人材不足。 ・既存製品の売上減。
一般機械	<ul style="list-style-type: none"> ・受注7%程度減少。
電気機械	<ul style="list-style-type: none"> ・円高及び経済の不透明感による影響。 ・円高の影響で原価率が0.7ポイント対前年比悪化した。
輸送用機械	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本地震のため。 ・円高の影響を強く受け、本体、部品ともに利益減。
精密機械	<ul style="list-style-type: none"> ・医療品機械部品加工が安定した受注により増減の幅が少なくすんでい ・注文の減少。
その他の製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・新事業部の赤字。

【非製造業】

「良い」（かなり良い+やや良い）

業種	事象
建設	<ul style="list-style-type: none"> ・東京オリンピック効果により県内へ大手参入が減ってきたので受注機会が増えた。 ・公共工事発注増加（耐震補強工事）。 ・今までのように住宅ローン金利が低下すれば住宅着工数が増えることは望めない状況だと実感するようになった。 ・客先の設備投資が引き続き好調で受注が見込める。
運輸・通信	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季（高温のため）ジュース関係類の原料出荷が増加ぎみである。
小売	<ul style="list-style-type: none"> ・同業者からの顧客譲渡による影響で売上が10%~12%増加した。 ・猛暑の影響で7月の売上が10%増加した。8月はその先食い現象で売上げ昨比並。9月もほぼ同じか？ ・省エネ気運の盛り上がりでエネファームの売上増大。
サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・受注が増加。 ・店舗改装により来店者数が増加。

「悪い」（かなり悪い+やや悪い）

業種	事象
建設	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員も減り、売上が減少した。 ・受注減。 ・主要取引先である会社が統合合併したため売上が減少した。 ・落札できず、工事店が減少した。 ・手持工事の売上高、収益状況を見通すと当面は前年同期比マイナスで推移する見通し。
不動産	<ul style="list-style-type: none"> ・この2年間で売上が半減。2期連続の最終赤字。
卸売	<ul style="list-style-type: none"> ・原油市場の世界的な不透明円高の流れ。 ・曇需要の減少。 ・エネルギー関連商品 ハイブリッドにて販売数字が伸びない。 ・工作機械見本市（JIMTOF）が秋にあり、受注が増えそう。 ・全体的に不景気の影響。売上10%減少。 ・ガラス交換をせず、リペア処理で済ますお客さまが引き続き増加している。その為、売上が減少している。
小売	<ul style="list-style-type: none"> ・原油高騰により販売価格値上げ。それに伴う客数減。 ・売上が10%減少。 ・気候変化（高温）による消費量の減少。 ・国内旅行における京都・滋賀への集客が弱くなり、売上が10%前後減少している。 ・11月に当社オリジナル商品の発売があるため売上改善を見込んでいる。 ・原材料（仕入）の値上がり。 ・市況の影響で売上減。
運輸・通信	<ul style="list-style-type: none"> ・28年4~6月の売上が前年比92.3%と減少した。 ・国内消費の低迷により各社（得意先）の売上げが減少している。 ・売上減少。
サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・高速道路の交通量が減少し、高速関係事業所（4ヶ所）の売上が減少。 ・低い単価の収入を制限したため、稼働率が低下したが、回復が遅れている。 ・車両販売が低調なため売上げ減少（10~20%）。 ・原油価格の下落で28/5期の製品売上（LS重油）が前期比28.8%減少となった。 ・少子化の影響で卒業アルバムの売上が10%減少した。 ・昨年はふるさと割の効果があり、売上が10%増加した。 ・当社は企業内給食業を営んでいるが、取引先の従業員が横這いであり食数が伸びない。また、時間外労働の規制があり、夕食が減少している。 ・取引先の経費見直しから、契約更新時に委託契約料の引き下げを求められている。
その他非製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・ドクター（医者）の夏休み、ドクターの退職等。

2. DI回答一覧(業種別)

項目	業況判断DI				売上				仕入価格				販売価格			
	前回		今回		前回		今回		前回		今回		前回		今回	
	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年
調査時期	4-6	7-9	7-9	10-12	4-6	7-9	7-9	10-12	4-6	7-9	7-9	10-12	4-6	7-9	7-9	10-12
現在/3カ月後の見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し
全体	-13	-17	-15	-13	-9	-15	-13	-14	10	11	2	5	-6	-5	-8	-7
製造業	-11	-15	-18	-10	-7	-15	-11	-16	-3	-1	-5	2	-9	-11	-10	-8
繊維	-12	-35	-30	-31	-6	47	-9	-4	-12	-6	-9	-13	-6	-11	-4	-17
木材・木製品	-29	0	-46	-9	-38	25	-36	-27	-25	0	0	18	-13	-25	-9	-18
紙・パルプ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
化学	0	33	-11	-11	0	22	-33	-22	-25	0	-33	0	-22	-11	-33	-11
石油・石炭	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
窯業・土石	-17	-33	-10	-30	-17	67	-20	-30	0	0	0	0	-17	-17	-20	0
鉄鋼	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
非鉄金属	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
食料品	-9	-27	-40	0	-18	46	-27	-20	18	-9	7	0	9	0	0	0
金属製品	5	-44	-17	-17	-5	44	-11	-45	-11	-11	-17	-6	-5	-11	-11	-6
一般機械	-13	-7	-36	-7	-27	33	-50	-7	-7	7	0	0	-7	0	-21	-7
電気機械	8	0	21	0	33	18	22	7	8	8	7	14	-17	-17	-7	0
輸送用機械	-50	-25	-63	-75	0	50	-25	-38	0	0	-13	0	-25	-25	-25	-38
精密機械	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
その他の製造業	-14	-3	19	14	0	20	19	-3	10	0	-3	8	-3	0	0	0
非製造業	-14	-18	-13	-15	-10	-14	-14	-13	21	20	8	7	-4	-1	-7	-6
建設	-12	-15	-14	-13	-4	26	-12	-15	11	9	4	5	-11	-7	-10	-11
不動産	0	27	8	9	-42	27	8	25	10	20	40	33	0	0	0	18
卸売	-23	-40	-21	-27	-5	32	-38	-25	28	24	8	6	-5	8	-16	-11
小売	-30	-42	-29	-38	-22	35	-21	-30	33	23	9	5	-4	-4	-2	-9
運輸・通信	-6	6	-19	-6	-13	19	-6	-6	23	54	0	7	-7	0	7	0
電気・ガス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
サービス	4	7	5	3	7	31	-8	0	24	18	9	12	10	3	-6	-3
リース	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
その他の非製造業	-38	-63	17	17	-50	50	50	17	0	14	0	0	-13	0	0	17

項目	経常利益				製・商品の在庫				生産・営業用設備				雇用人員			
	前回		今回		前回		今回		前回		今回		前回		今回	
	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年	16年
調査時期	4-6	7-9	7-9	10-12	4-6	7-9	7-9	10-12	4-6	7-9	7-9	10-12	4-6	7-9	7-9	10-12
現在/3カ月後の見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し
全体	-11	-16	-14	-14	7	6	7	5	1	-1	-3	-5	-18	-21	-21	-22
製造業	-13	-19	-17	-14	8	5	13	8	-2	-4	-2	-5	-11	-10	-9	-13
繊維	0	-30	-13	-4	18	18	13	13	0	-6	4	4	-12	-6	-26	-13
木材・木製品	-38	-13	-55	-27	13	13	-9	-9	13	13	9	9	13	0	0	-9
紙・パルプ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
化学	0	-22	-45	-22	0	0	11	0	-11	-11	22	11	-11	-11	11	-13
石油・石炭	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
窯業・土石	-33	-33	20	10	0	0	10	20	-17	-17	-20	-30	-17	17	10	-10
鉄鋼	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
非鉄金属	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
食料品	0	-9	-13	7	0	0	7	-13	9	0	-7	-13	-27	-46	-33	-60
金属製品	-11	-28	-11	-33	11	0	12	6	-5	0	11	11	-26	-11	-6	-6
一般機械	-40	-27	-43	-14	20	7	14	14	7	-7	0	7	-7	-7	21	0
電気機械	17	9	-14	-29	0	0	7	7	0	0	-7	-14	0	-8	-7	0
輸送用機械	0	0	-25	-38	0	0	13	13	-25	-25	-13	-13	0	0	-13	0
精密機械	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
その他の製造業	-10	-7	-3	-5	3	3	24	11	-3	-3	-11	-14	-20	-10	-19	-16
非製造業	-9	-13	-11	-14	7	7	1	2	3	2	-4	-4	-24	-29	-30	-29
建設	-17	-21	-18	-18	-2	0	-2	-3	0	-2	0	-4	-28	-41	-36	-34
不動産	-18	-10	0	25	18	18	0	0	0	0	-18	-20	9	-9	0	-9
卸売	8	-11	-22	-25	18	18	14	17	5	5	0	3	0	8	0	0
小売	-26	-27	-14	-30	26	15	0	5	0	0	-7	-5	-52	-50	-41	-41
運輸・通信	0	0	6	0	-8	-8	-8	-8	20	27	7	7	-13	-33	-31	-38
電気・ガス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
サービス	10	3	5	5	-8	-8	-3	-3	-7	-7	-14	-11	-43	-45	-45	-40
リース	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
その他の非製造業	-50	-25	-17	-33	0	14	17	17	25	0	0	0	-13	-13	-33	-17

※回答数が1項目でも3社以下の業種はすべての項目を非表示(Xと表示)